

教材名 「平仮名や片仮名の成り立ち」

目 標

- ・日本語を書き表すために用いられる文字の由来や特徴に関心を持ち、適切に文字を使い分ける。

コンピュータを活用する利点

- ・6年生の国語「日本語の文字」という単元で黒板投影型のコンテンツを使用した。
- ・平仮名の成り立ちについて理解する場面で、平仮名のもととなった漢字の楷書体、草書体を黒板に投影する。黒板に投影した漢字の上にチョークで平仮名を書くことにより、漢字をくずして書いた形から平仮名がつけられたことを実感させたい。視覚的に確認しやすくすることで、理解の手助けにし、それを確認するというねらいのもとコンテンツを使用した。

授業の流れ

日常生活で使っている文字を身の回りから探し出す。

漢字の成り立ちの復習をする。

「万葉仮名」の特徴を理解する。

- ・万葉仮名で書かれた短歌のコンテンツを投影し読ませる。

平仮名は漢字をもとにして作られたことを理解する。

- ・コンテンツを投影した黒板に書き込ませる。
- ・文字が変化していく様子のアニメーションを投影する。

片仮名は漢字の一部をとって作られたことを理解する。

- ・コンテンツを投影した黒板で片仮名のもとになった漢字の一部を で囲ませる。

平仮名や片仮名の成り立ちや特徴について思ったことなどをまとめる。

ICT 活用場面

今回、国語の「日本語の文字」という単元でコンテンツを利用した授業を行ったが、子ども達には大変好評であった。大型ディスプレイに表示したときのように黒板に文字が映る、その上にチョークで書き込める、文字が動く、Web 上のコンテンツが黒板の上で動く等、興味を持って学習することができた。平仮名は漢字をくずして書いた形（草書体）から作られたことを知り、実際に草書体の上に平仮名を重ねて書き込むことにより、その成り立ちを実感することができた。

成果と課題

コンピュータとプロジェクタを使い、コンテンツを黒板上に映すという普段とは違った授業なので、児童が興味を持つことは当然である。今回の授業では、平仮名は漢字をくずして書いた形が元になっていることを確認、理解することにコンテンツが役立ったことから、短時間で作成したコンテンツを効果的に活用できた授業であったとすることができる。

ICT 活用場面

使用周辺機器	ノートパソコン1台、プロジェクタ
使用ソフト名	PowerPoint , Word , Internet Explorer
使用教室	普通教室

